

1 学 年 第4学年

2 単元名 物語をつくろう

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第3学年及び第4学年〔知識及び技能〕(1)「オ 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。」及び〔思考力・判断力・表現力等〕B書くこと(1)「イ 書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。」に基づいて設定するものである。

本単元では，全ての学習過程において，文章を書く相手や目的を念頭に置くことによって生まれた思いや考えを基にして，物語を創造することに向かうようにする。

4 児童観

昨年度は，「物語を書く」という言語活動を通して，学習指導要領（平成29年告示）国語第3学年及び第4学年〔知識及び技能〕(1)「ウ 漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。」及び〔思考力・判断力・表現力等〕B書くこと(1)「ア 相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。」について学習した。

漢字や仮名を用いた表記，送り仮名の付け方については，この単元までに習った漢字は，思い出せなかった場合には辞書を引いて調べるなどして，物語を書く中で正しく使うことができた。しかし，文章の内容のまとまりが理解できていなかった児童は，適切に改行したり句読点を打ったりすることができなかった。また，相手や目的を意識させないまま，「物語を書く」という言語活動に取り組みさせてしまったため，物語の内容の中心を明確にできないままの児童もいた。

5 指導観

書くことのすべての学習過程において，文章を書く相手や目的を念頭に置くことによって生まれた思いや考えを基にして，物語を創造することに向かうようにするために，教師が作成した物語とその作成にあたって用いたワークシート（記入済みのもの）を提示し，教師が物語を完成させるまでに，行った思考・判断やそれによって生まれた思いや考えを学習活動のまとまりごとに説明し，児童に学習活動のイメージをもたせる。また，児童が相手や目的を意識できるようにするために，相手や目的を具体的に想定させたり，「相手（目的）（伝えたいこと）が——だったら，どうするべきか」を考えさせたり，「相手（目的）（伝えたいこと）が——だったら，なぜ～～すべきだと考えたのか」を振り返らせたりする。

さらに，この単元において重点とする「構成の検討」の学習過程においては，「①書く内容を大まかに考える段階」「②内容の中心を考える段階」「③内容のまとまりで段落を作る段階」「④段落相互の関係に注意して文章の構成を考える段階」「⑤自分の考えが明確になるようにする段階」の五つの段階に分け，次のような指導の工夫を行うことで，物語に書く内容の中心を明確にし，文章の構成を考えられるようにする。

- ① 登場人物ごとに付箋の色を決め，一枚の付箋に一つの行動を書かせるようにして，付箋を増やしたり動かしたりすることで，物語で起こる出来事をつくるよう指示する。また，この段階以降，構成を検討する学習過程の各段階において，適宜付箋を追加したり，削除したりしてよいこととする。
- ② ①でつくった出来事の中から，相手や目的，物語を通して伝えたいことに最もふさわしい出来事を選び，この出来事に関わる他の書きたい出来事を，①でつくった出来事の中から選んだり，①の学びを生かして新たに出来事をつくったりするよう促す。
- ③ 場面を考える際は出来事のまとまりを基に，形式段落を考える際には出来事の中の登場人物（相互）の行動を基に考えるよう促す。
- ④ 登場人物の変化を明確に表現するために，中心となる出来事とそれに関わる他の出来事をどのように配置するのが効果的かを考えるよう促す。

⑤ ①②③④の各段階において、書こうとする物語が、具体的に想定した相手や目的、物語を通して伝えたいことにふさわしいものになっているかどうかを振り返って説明するよう指示する。また、「推敲」の学習過程においても、「構成の検討」の各段階をもう一度振り返り、必要に応じて修正するよう促す。

加えて、本単元においては、様子や気持ちを表す語句の量を増やし、文章の中で使えるようにするために、教科書の巻末資料を用いる。ここに掲載されている様子や気持ちを表す語句について、「意味を知っているもの」「文や文章の中で使えるもの」などを確認させるとともに、その語句の意味を知らない場合には、辞書で調べたりどのような文脈で使うのかを考えさせたりする場面をつくる。また、似たような様子や気持ちを表す語句を分類するとともに、ニュアンスの違いなどを考えさせたりする。その上で、物語を記述する前段階において、上段には出来事を、下段には登場人物の様子や気持ちを書き込む欄を配置したワークシートに、上段に示した出来事の中の登場人物の行動を中心に、登場人物の様子やその行動をしたときの気持ちを適切に表す語句を下段に書き込むよう促す。

6 単元の目標

- 様子や気持ちを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項オ

- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕B書くこと(1)イ

- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や気持ちを表す語句の量を増し、文章の中で使うとともに、言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	書くことにおいて、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。	内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくって粘り強く文章の構成を考え、学習の見通しをもって、想像したことを物語に書こうとしている。

8 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○ 学習の見通しをもつ。 ○ 相手や目的を具体的に設定する。	・ 目標を達成できるよう学習に取り組むために、教師が作成した物語と物語作成までに用いたワークシートを提示する。 ・ 学習の見通しをもてるよう、目標達成のために考えたいことを挙げるよう指示する。 ・ 相手と目的を具体的に設定するために、物語を読んでもらう相手の性格や置かれている状況を分析させたり、それを踏まえて物語を書く目的を考えたりするよう指示する。 ・ 物語を通して伝えたいことを考える。	
2	○ 物語のつくりを確認する。 ○ 様子や気持ちを表す語彙を増す。	・ 物語のつくりを確認するために、読むことの単元で扱った教材を想起させ、登場人物の担う役割や登場人物の設定、発端から結末に至る展開、中心となる出来事、この物語を通して作者が伝えたいことなどについて考えるよう指示する。 ・ 児童の様子や気持ちを表す語句に関する理解を把握するために、教科書に掲載されている様子や気持ちを表す語句に、「意味が分かり、文や文章で使える◎」「意味は分かるが、文や文章で使ったことがない○」「意味が分からない△」を付けるよう指示する。 ・ 様子や気持ちを表す語句の量を増すために、△が付いた語句の意味や使い方を調べるよう指示する。 ・ 語句のまとまりを理解するために、似た意味をもつもの同士に分類してまとめたり意味合いの違いを考えたりするよう指示する。 ※ 様子や気持ち表す語句を文や文章の中で使えるようにするために、○や△が多く付いた語句を中心に、例文づくりや日記での使用を促す。	
3	○ 物語の登場人	・ 学習活動の見通しをもたせるために、教師が物語を作成する過程	

	物を設定する。	で使用したワークシートを提示する。 - 物語の登場人物を設定するために、ワークシートに、主人公と対役、その他の登場人物とに分けて、それぞれの性格や役割などの特徴を考えるよう指示する。 - 相手や目的、伝えたいことを意識して、物語の登場人物を設定するよう助言する。	
4 5	○ 物語の内容を大まかに考える。	- 学習活動の見通しをもたせるために、教師が物語を作成する過程で使用したワークシートを提示する。 - 物語の内容を大まかに考えるために、主人公の行動を書いた付箋の近くに、その行動に関わる他の登場人物の行動を書いた付箋を貼って、物語で起こる出来事をつくるよう指示する。 - 必要に応じて、付箋を入れ替えたり、削除したり、増やしたりするよう指示する。 - 相手や目的、伝えたいことを意識して、物語で起こる出来事をつくるよう助言する。	
6 7 8	○ 物語に書く内容の中心を明確にし、これに関わる他の書きたい内容を明らかにする。 ○ 内容のまとまりで段落をつくる。	- 学習活動の見通しをもたせるために、教師が物語を作成する過程で使用したワークシートを提示する。 - 物語に書く内容の中心を明確にするために、前時につくった出来事の中から、中心としたい出来事の一つに絞るよう指示する。 - 中心としたい出来事に関わって他に書きたい出来事を、前時に作った出来事の中から選んだり、前時の学びを生かして新たに出来事をつくったりするよう指示する。 - 相手や目的、伝えたいことを意識して、物語に書く内容の中心を明確にし、これに関わる他の書きたい内容を明らかにするよう助言する。 - 場面や形式段落を考えるために、物語中の出来事のまとまりや登場人物（相互）の行動に注目するように指示する。	「思考・判断・表現」 ワークシート ここでは、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで場面や形式段落をつくっているかの確認。
9 10	○ 物語の展開や構成を考える。	- 学習活動の見通しをもたせるために、教師が物語を作成する過程で使用したワークシートを提示する。 - 物語の展開や構成を考えるために、第2時の学習を想起するよう促す。 - 登場人物や状況の変化を明確に表現するために、物語に書く内容の中心と、これに関わる他の書きたい内容をどのように配置するのが効果的かを考えるよう促す。 - 相手や目的、伝えたいことを意識して、物語の構成を考えるよう助言する。	「思考・判断・表現」 ワークシート ここでは、登場人物や状況の変化を明確に表現するために、出来事（内容）の配置を工夫しているかの確認。
11 12	○ 書き表し方を工夫して物語を書く。	- 学習活動の見通しをもたせるために、教師が作成した物語と物語作成のために使用したワークシートを提示する。 - 書き表し方を工夫するために、第2時の学習を生かすよう促すとともに、登場人物の様子や気持ちを表す語句をワークシートに書き込むよう指示する。 - 物語を完成させるために、これまでに作成したワークシートを活用して、原稿用紙に書くよう指示する。	「知識・技能」 ワークシート、完成した物語 ここでは、様子や気持ちを表す語句を、性質による語句のまとまりの中から選び、物語の中で適切に使っているかの確認。
13	○ 間違いを直し、展開や構成、表現を確かめ、修正する。	- 学習活動の見通しをもたせるために、教師が作成した物語と物語作成のために使用したワークシートを提示する。 - 書く内容の中心が伝わる展開や構成、表現にするため、中心となる内容とそれに関わる他の書きたい内容の配置や、登場人物や状況の変化の描き方を確かめ、必要に応じて修正するよう指示する。 - 間違いを正すために、辞書等を活用してよいことを助言する。	「主体的に学習に取り組む態度」 ワークシート、振り返りシート 内容の中心を明確にし、内容のまとまりで場面や段落をつかって粘り強く文章の構成を考え、学習の見通しをもって、想像したことを物語に書こうとしているかの確認。
14	○ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。	- 学習活動の見通しをもたせるために、教師が作成した物語を読んだ他の教師とのやり取りの様子を提示する。 - お互いの物語を読む前に、各自が設定した相手や目的、物語を通して伝えたいこと、物語の中心とした内容を伝えるよう指示する。 - お互いの物語を読み、工夫されている点を見い出して感想を伝え合うよう指示する。 - 自分の文章のよいところを振り返りシートに記入するよう指示する。 ※ 物語を全員で共有できるよう、教室内に展示する。	
15	○ 学習を振り返る。	- 構成を検討する過程で、大切なことをまとめるよう指示する。 - 構成を検討することの必要性、日常生活において活用できる場面を想起させる。	

9 本時の展開

(1)本時の目標

自分の書く物語の展開や構成を考えることができる。

(2)準備物

- ・ワークシート（「物語をつくろう⑤」）
- ・付箋（3色）
- ・振り返りシート
- ・電子黒板
- ・学習と評価の計画を示したスライド
- ・物語のつくりを示したスライド
- ・思考の進め方を示したスライド（思考するための問いを書いた吹き出し、教師の思考・判断を書いた吹き出し）
- ・教師が物語を作成する際に記入したワークシートを拡大したもの（「物語をつくろう①（相手や目的を具体的に想定する段階で用いたもの）」、「物語をつくろう④（書く内容を明確内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作る段階で用いたもの）」「物語をつくろう⑤（本時で用いるもの）」）

(3)学習の展開

学習活動	指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準と評価方法
1 これまでの学習を振り返る。 2 物語のつくりを確認する。 3 物語の展開や構成を考える。	○ 電子黒板に、学習と評価の計画を示したスライド（(4)の《A》）を示しながら、本時の位置付けを確認し、評価について説明する。 ○ 相手や目的を意識し、物語の中心とする出来事とそれに関わって書きたい他の出来事とを確認するため、ワークシートを振り返るよう、指示する。 ○ 物語のつくりを確認するために、第2時の学習を想起するよう促す。 ・ 電子黒板に、物語のつくりを示したスライド（(4)の《B》）を示す。 ○ 教師が物語を作成した際に行った思考の進め方をたどりながら、児童とともに考える。 書こうとする物語の構成をどのようにすればよいと思いますか。またその構成にするのはなぜですか。相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことと結び付けながら説明しましょう。 ・ 電子黒板に、思考するための問い（(4)の《C》①）を提示する。 物語の山場にはどのような出来事を配置しますか。また、山場前後で登場人物にどのような変化を起こしたいですか。それはなぜですか。相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことと結び付けながら説明しましょう。 ・ 教師が作成した「物語をつくろう④」の中から、物語の山場としてふさわしいと考える出来事を選ぶよう指示し、なぜその出来事が物語の山場としてふさわしいと考えたのか、山場の前後で登場人物にどのような変化が起こるかを説明するよう促す。 ・ 物語の山場とその前後で起こる登場人物の変化に関わる出来事の配置について、相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことと結び付けて考えることを意識させるよう、電子黒板に、教師の思考・判断を書いた吹き出し（(4)の《C》②）を提示し、説明する。 モモちゃん（教師が作成した物語の主人公、以下同じ。）が不満を爆発させる出来事を物語の山場にして、普段大人しいモモちゃんが思ったことを言ったという変化を表したい。そうすれば、言いたいことがあっても我慢しがちなAちゃん（教師が具体的に想定した読者、以下同じ。）に「思っていることは言ってもいい」ということが伝わると思うから。 ・ 「物語をつくろう④」に貼ってあった付箋を、「物語をつくろう⑤」に移動する。 ・ 電子黒板に、思考するための問い（(4)の《C》③）を提示する。 山場とする出来事に関わって、他に書きたい出来事をどこに配置しますか。また、その配置が良いと考えるのはなぜですか。相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことと結び付けながら説明しましょう。 ・ 物語の中心となる内容とそれに関わる他に書きたい内容の配置について、相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことと結び付けて考えることを意識させるよう、電子黒板に、教師の思考・判断を書いた吹き出し（(4)の《C》④）を提示し、説明する。	

物語の中心となる掃除時間の出来事の前に、休憩時間の出来事を配置する。そうすれば、モモちゃんががまんしていることや、もやもやしている様子が伝わると思うし、モモちゃんの変化を描きやすいと思うから。また、Aちゃんに、普段大人しいモモちゃんと自分を重ねて読んでもらえると思うから。

- 自分が書く物語の構成を考えるよう指示する。
 - ・ 思考するための問いを黒板にも掲示する。
 - ・ 自分の思考や判断をワークシートの吹き出しに書くよう、指示する。
- ◆ 教師がどのように考えていったのかを参考にするよう、助言する。
- ◆ 「物語を読んでもらいたい相手が〇〇という状況だったら」「物語を読んでもらう目的が〇〇だったら」「物語を通して伝えたいことが〇〇だったら」と問いながら、物語の山場とする出来事やその前後で登場人物にどのような変化が起こすのかを考えるよう促す。
- ◆ 理由を書きにくそうにしている場合には、児童の思考・判断を聞き出し、その内容を端的にまとめるよう助言する。
- 教師が物語を作成した際に行った思考の進め方をたどりながら、児童とともに考える。
 - ・ 電子黒板に、思考するための問い（(4)《C》⑤）を提示する。

物語の構成を見直したとき、書き加えたい内容はありませんか。また、その内容を書き加えたいと考えるのはなぜですか。相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことと結び付けながら説明しましょう。

- ・ 教師が作成した「物語をつくろう⑤」のワークシートを見ながら、書き加えたい内容とその理由を考え、説明するよう促す。
- ・ 書き加えたい内容について、相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことと結び付けて考えることを意識させるよう、電子黒板に、教師の思考・判断を書いた吹き出し（(4)の《C》⑥⑦）を提示し、説明する。

休憩時間の出来事を書く前に、登場人物とその関係を説明する。そうすれば、Aちゃんが主人公のモモちゃんと自分を重ねて読み始めることができると思うから。登場人物たちの関係が分かったほうが、物語の内容を理解しやすくなると思ったから。

掃除の時間の出来事のあとに、その日の後の出来事として、キイチちゃん（教師が作成した物語の対役）の乱暴さが少し無くなったことを書くと、キイチちゃんがその時仕方なく真面目に掃除をしたのではなくて、良い変化があったということが伝わると思う。そうすれば、Aちゃんに「勇気を出すと、いいことがあるよ」ということが伝わると思うから。

- ・ 本時のワークシートに、登場人物の行動を書いた付箋を追加する。
- 自分が書く物語の構成を考えるよう指示する。
 - ・ 思考するための問いを黒板に掲示する。
 - ・ 自分の思考や判断を、ワークシートの吹き出しに書くよう指示する。
 - ・ 登場人物の行動を書いた付箋を増やしてよいことを伝える。
- ◆ 教師の思考の進め方を参考にするよう、助言する。
- ◆ 「物語を読んでもらいたい相手が〇〇という状況だったら」「物語を読んでもらう目的が〇〇だったら」「物語を通して伝えたいことが〇〇だったら」と問いながら、書き加えたい内容を考えるよう促す。
- ◆ 理由を書きにくそうにしている場合には、児童の思考・判断を聞き出し、その内容を端的にまとめるよう助言する。
- ワークシートの左端の欄（「なぜこのような出来事（内容）の配置にしようと思いましたか？」）を記入するよう指示する。
- ◆ 吹き出しに書いた内容をまとめるよう、助言する。
- 自分の物語の構成を説明し、なぜそのような構成にしようと考えたのかを説明するよう指示する。
- 「相手や目的を意識しているかどうか」「物語を通して伝えたいこととつながっているかどうか」を確かめながら説明を聞くよう促す。
- 相手の説明が不十分な場合には質問してもよいことを伝える。また、質問をされた場合には、もう一度考えるように促す。
- 物語の構成を考える際に意識したことや工夫したこと、説明をした相手からもらったアドバイスへの対応などを視点にして学習を振り返り、振り返りシートに記入する。
- 本時の学びが別の場面においても活用できることを価値付ける。
- 電子黒板に、学習と評価の計画を示したスライド（(4)の《A》）を示しながら、次時の位置付けを確認する。

「思考・判断・表現」
ワークシート

- ・ ここでは、登場人物や状況の変化を明確に表現するために、出来事（内容）の配置を工夫しているかの確認。

4 考えたことを振り返ってまとめる。

5 考えたことを説明する。

6 次時の見通しをもつ。

(4)板書計画
教室前方の配置

電子黒板	黒板	掲示板
------	----	-----

黒板の下方に、本時に用いるワークシート（「物語をつくろう⑤」）の出来事の欄を拡大したものを掲示

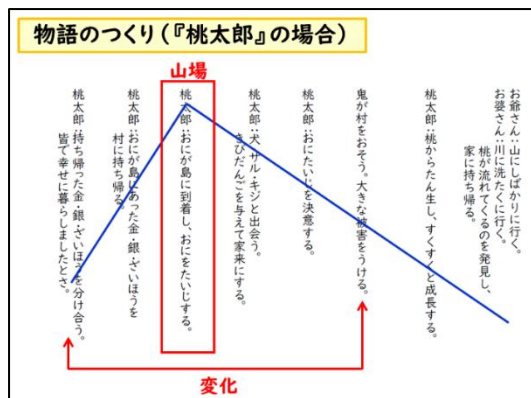
教師が作成した「物語をつくろう①」と「物語をつくろう④」を拡大したものを掲示

電子黒板に提示するスライド

《A》：学習と評価の計画を示したもの

単元の目標 ○ 様子や気持ちを表す語句の量をまし、文章の中で使うとともに、言葉にはまとまりがあることを理かいいし、語いを豊かにすることができ。〔知しきおよびぎのう〕 ○ 書く内よりの中心を明かにし、内よりのまとまりでだん落をつくり、だん落相ごの関係に注意したりして、文章のこう成を考えることができる。〔思考力・はんだん力・表現力等〕 ○ 言葉がもつよさに気付くとともに、はば広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学力・めう力、人間性等〕		
付けたい（発きたい）力やたい度と学習活動の計画		
時間	付けたい（発きたい）力やたい度	学習活動
1	・ 学習に生かせることを見いだしたり考えたりして、見通しをもつたい度。 ・ 物語の読み手がどのようなかを分せたり、物語を読んでもらう目的や物語を通して伝えたいことを考えたりする力。	○ 学習の見通しをもつ。 ○ 相手や目的をせつ定し、物語を通して伝えたいことを考える。
2	・ 物語のき基本的な形を理かする力。 ・ 様子や気持ちを表す語句を集め、にたような様子や気持ち表す語句を分類したり、意味合いのちがいを理かいたりする力。	○ 物語のつくりをかくにんする。 ○ 様子や気持ちを表す語句をます。
3	・ 登場人物の性格や役わりを考える力。	○ 物語の登場人物をせつ定する。
4	・ 登場人物の行動を考え、物語で起こる出来事をつくる力。	○ 物語の内よをおおまかに考える。
5		
6	・ 「この出来事を物語の中心にしたい」という内よと、これに間わって書きたい内よとを考え、内よりのまとまりで場面や形式だん落をつくる力。（「思判表」）	○ 物語に書く内よりの中心を明かにし、内よりのまとまりでだん落をつくる。
7		
8		
9	・ 登場人物やじよきょうの変化を表現するために、出来事の配置を考える力。（「思判表」）	○ 物語のこう成を考える。
10		
11	・ 登場人物の様子や気持ちを表すにふさわしい語句を選び、物語の中で使う力。（「知授」）	○ 書き表し方を工夫して物語を書く。
12		
13	・ 内よりの中心を明かにし、内よりのまとまりでだん落を作ってねばり強く文章のこう成を考え、学習の見通しをもつて、想像したことを物語に書こうとするたい度。（主判）	○ 間ちがいを正し、こう成や表現をたしかめしゅう正する。
14	・ 物語を読んで、書き手が書こうとしたことが表現された部分を見付けて、その良さを言葉で伝える力。 ・ 自分の物語の良さを見付けける力。	○ 物語に対する感想を伝え合い、自分の物語の良ところを見付けける。
15	・ こう成を考えることの重要性や、そのためのし点などについてふり返るたい度。	○ 学習をふり返る。

《B》物語のつくりを示したスライド



《C》思考の進め方を示したスライド

（上側からの吹き出しは思考するための問い、下側からの吹き出しは教師の思考・判断）

【出来事の配置を考える】

物語の山場にはどのような出来事を配置しますか。また山場前後で登場人物にどのような変化を起こしたいですか。それはなぜですか。相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことを結び付けながら説明しましょう。

掃除時間の出来事の前、休けい時間の出来事を配置する。そうすれば、モモちゃんや自分がまわっていることや、もやもやしている様子が伝わると思うし、変化をえがきやすくなる。また、Aちゃんに、ふだん大人しいモモちゃんと自分を重ねて読んでもらえると思うから。

山場とする出来事に間わって、他に書きたい出来事をどこに配置しますか。また、その配置がよいと考えるのはなぜですか。相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことを結び付けながら説明しましょう。

掃除時間の出来事の前、休けい時間の出来事を配置する。そうすれば、モモちゃんや自分がまわっていることや、もやもやしている様子が伝わると思うし、変化をえがきやすくなる。また、Aちゃんに、ふだん大人しいモモちゃんと自分を重ねて読んでもらえると思うから。

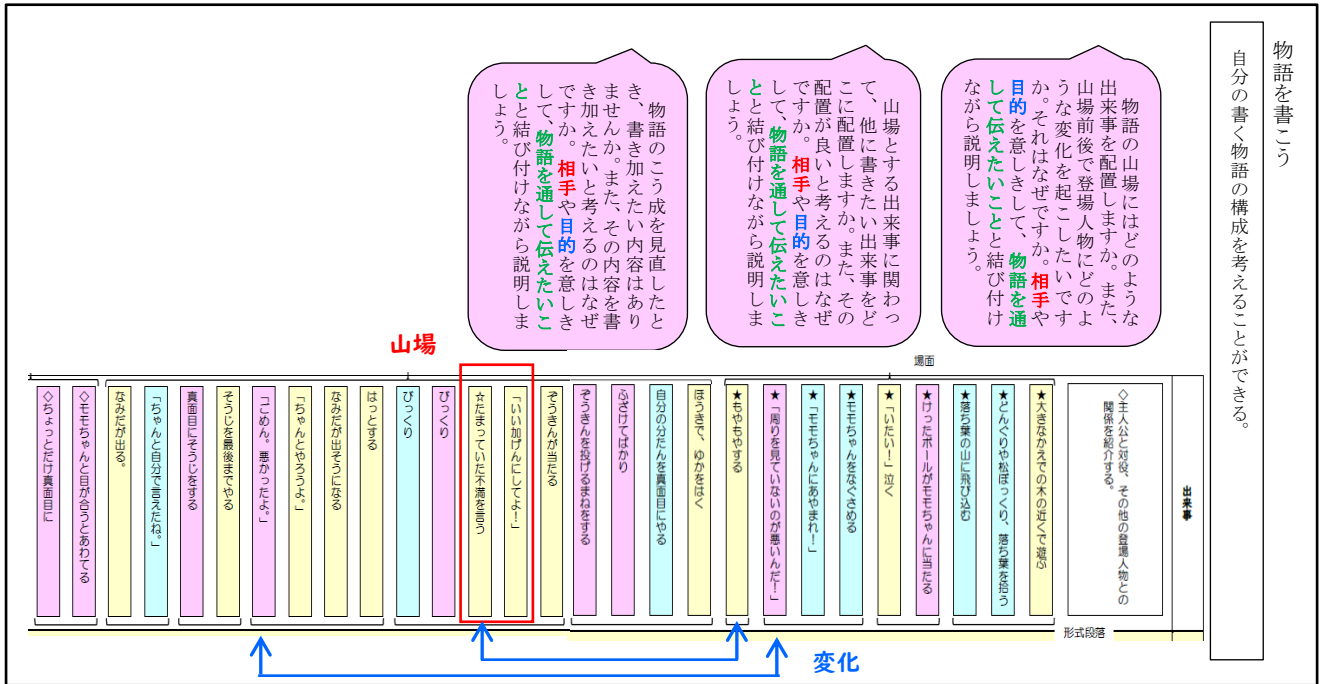
【出来事の配置を考える】（続き）

物語のこう成を見直したとき、書き加えたい内容はありますか。また、その内容を書き加えたいと考えるのはなぜですか。相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことを結び付けながら説明しましょう。

休けい時間の出来事を書く前に、登場人物とその関係を説明する。そうすれば、Aちゃんが主人公のモモちゃんと自分を重ねて読め始めることができて、相手や目的を意識して、物語を通して伝えたいことを結び付けながら説明しましょう。

掃除時間の出来事のおとに、その日の後の出来事として、キイチちゃんやAちゃんや自分がまわっていることや、もやもやしている様子が伝わると思うし、変化をえがきやすくなる。また、Aちゃんに、ふだん大人しいモモちゃんと自分を重ねて読んでもらえると思うから。

そうすれば、Aちゃんに、ふだん大人しいモモちゃんと自分を重ねて読んでもらえると思うから。



10 学習評価

「知識・技能」

- 様子や気持ちを表す語句について、似た意味をもつものを分類してまとめたものの中から、登場人物の行動の様子やその行動をしたときの気持ちを表す適切な語句を選んでワークシートに記入し、児童が書いた物語の中で、それらの語句を適切に用いていると見取れるものを「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。

「思考・判断・表現」

- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくる段階で用いるワークシートに、相手や目的を意識して、読者に伝えたいことと関連付けながら、なぜその出来事を中心としたいと考えたのか、なぜ中心に関わって書きたい出来事としたのかを記述していることと、出来事のまとまりで場面をつくったり登場人物（相互）の行動に着目して形式段落をつくったりしていることが見取れるものを「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。
- 物語の展開や構成を考える段階で用いるワークシートに、相手や目的を意識して、読者に伝えたいことと関連付けながら、登場人物や状況の変化を明確に表現するためには、なぜこの出来事の配置が良いと考えたのかを記述していること、さらに、ここまでに考えた物語の展開や構成を振り返って、相手や目的を意識して、読者に伝えたいことと関連付けながら、書き足したい内容を見いだしていることが見取れるものを「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。

「主体的に学習に取り組む態度」

- ワークシートや振り返りシートなどから、相手や目的を意識して、読者に伝えたいことと関連付けながら、出来事をつくったり、内容の中心を明確にしたり、配置を考えたりする際に、試行錯誤を重ねたり、必要に応じて他者からのアドバイスに対応しようとしたことなどが窺える記述や、教師の示すモデルを参考にして、見通しをもって学習活動に取り組んだことが窺える記述が見取れるものを「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。